

まつうらの再エネ最新情報！



# +再エネライフ Information

子ども達にやさしい環境を残すために。市全体で取り組みたい【再エネ】や【脱炭素】に関する情報をお届けします。

## 【エネルギーの地産地消が拡大！】市内3カ所、営農型太陽光発電所が完成

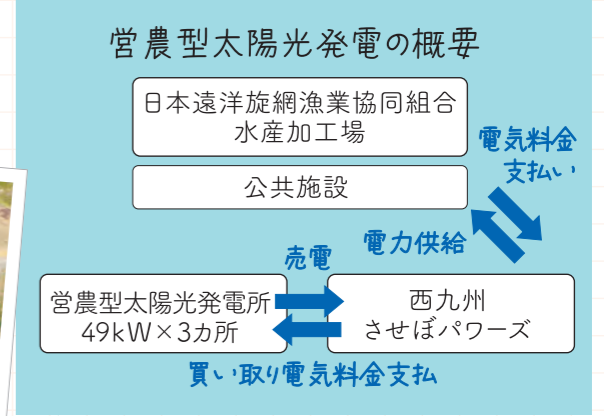
営農型太陽光発電所でつくられた電力は、日本遠洋旋網漁業協同組合水産加工場・公共施設で利用されます。



◀営農型発電所建設前 営農型発電所建設後▼ (今福町東免)



発電所は、今福町東免、今福町仏坂免、調川町中免の3カ所。全ての発電所下でアボカドを栽培予定。



### 農業者 福田さんの声

営農型発電所下でアボカドを栽培します。農業を軸に事業を多角化し、太陽光発電にも挑戦したことで収入が安定。従業員も増えました。  
ビックツリー(株)常務取締役 福田 邦光(ふくだくにみつ)さん

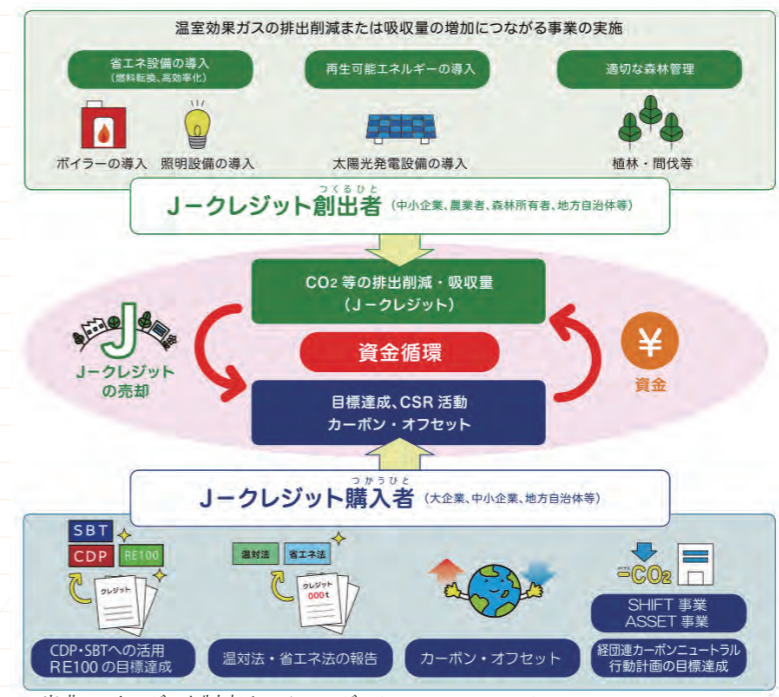


### 太陽光発電所所有者の一人 山川さんの声

発電所を1カ所所有しました。個人としては大きな投資ですが、地元松浦への恩返しと子ども達の未来への投資と考えています。  
営農型太陽光発電所を所有する 山川 利彦(やまかわとしひこ)さん



## 【CO2排出削減・吸収量を数値で見える化！】経済産業省・環境省・農林水産省が運用するJ-クレジット制度



J-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO2等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

(中小企業、農業者、森林所有者、地方自治体等)

- ✓ランニングコストの低減
- ✓クレジット売却益
- ✓地球温暖化対策への取り組みに対するPR効果など

### J-クレジット 購入者のメリット

- ✓環境貢献企業としてのPR効果
- ✓製品・サービスの差別化
- ✓企業評価の向上など

詳しくはJ-クレジット制度サイト▶ <https://japancredit.go.jp/>



\* 出典:J-クレジット制度ホームページ <https://japancredit.go.jp/>

松浦市の民間企業で初！

# エンマキさんがはじめます！

## 電力の地産地消

令和7年4月から、松浦市内で電力の地産地消をはじめめる日本遠洋旋網漁業協同組合(エンマキ)。取り組みを決めた要因や、背景にある思いを聞きました！



つながる。ひろがる。 **vol. 2025 3** **7**

**+再エネライフ**

- 7 工場・事業場の省エネ対策
- 9 農業と漁業の連携
- 13 環境負荷低減
- 14 持続可能な未来

電力の地産地消の事業を担当した日本遠洋旋網漁業協同組合(エンマキ) 左:大場 修一(おおばしゅういち)さん 右:青田 敏幸(あおたとしゆき)さん

## 豊かな漁場を 守りたい

漁業組合として豊かな漁場を守るため、地球温暖化対策に取り組んでいるエンマキ。その一つとして、市内の営農型太陽光発電所で発電された電力を市内で消費する、電力の地産地消をスタート。自然エネルギーや農地の活用によるCO2削減だけでなく、農業者ほか地域事業者の事業拡大にもつながっています。

## 経営的な視点でも 松浦産電力を選択

「太陽光発電は、電力料金が安定するところが良いですね。量が確保できれば、経営的にも良いと思います」と青田さん。取り組みの決め手は「電力料金を今と同じ価格帯のまま、使用電力の半分をCO2を排出しない再エネに置き換えられた」ことだそう。松浦から全国へ漁業をリードするエンマキは、持続可能な一次産業の未来に向けて舵を切っています。

## エンマキさんに聞きました！ 電力の地産地消 Q&A

**取り組みのきっかけを教えてください**  
松浦市から電力の地産地消の取り組みについて聞いたことがきっかけでした。

**発電量が安定しないリスクはどう考えますか？**  
太陽が出ている時間帯しか発電しないリスクはありますが、経営や投資にはリスクがつきものなので、長い目で取り組んでいこうと考えています。

**J-クレジットの取り組みについて教えてください**  
「豊かな漁場は良い森林から生み出される」という考えのもと、公益財団法人長崎県林業公社から50t-CO2分\*を購入しました。

\* 自家用乗用車約22台分の年間排出量(約2300kg/台・年)に相当。J-クレジットについて詳しくは裏面へ▶

### 松浦産電力を消費する 水産加工場(調川町)

松浦産のアジやサバなど自社工場で加工品を製造しており、直売所もあります。松浦産電力を消費しているそうです。



### 省エネ・環境対策として 大型の太陽光発電も

自社工場では太陽光発電のほか、冷蔵施設を省エネ型設備に更新したり積極的な取り組みを行っています。



INTERVIEW

平戸市・42歳 “日本一”の開拓者に学ぶ

人のつながりで

燃料を地産地消

使用済の調理油を回収し、燃料にリサイクルする事業を行う  
有限会社鶴丸設備 取締役の上田博之(うへだ ひろゆき)さん。  
25歳の時に平戸市で創業してから約17年の歩みや  
現在の松浦市との取り組み、  
地元や子どもへの思いを聞きました。

非常時にも  
人の命を守る燃料  
今も地元が第一優先

日本は、ガソリンなど燃料資源が乏しい国。災害などの非常時、燃料がなければ救急車や消防車を動かすこともできません。上田さんは、約17年前から使用済の調理油を燃料にリサイクルできないか研究。今では、松浦市とも連携し、アジフライの揚げ油も回収して軽油代わりなるバイオディーゼルのリサイクル。人にも自然にも未来にもやさしい燃料の地産地消を目指しています。

上田さんは25歳でバイオディーゼルの研究を始め、材料となる使用済の調理油の回収先を一件一件地道に開拓しました。「初めは取り合ってもらえないこともありましたが、元サッカー選手なのでフットサルチームに所属したり、飲食店で就業後にバイトして大手企業のおかげで今があります。」と、全国企業との取引を優先しています。



バイオディーゼルの走る上田さんのマイカー。車には「てんぷら油で走っています!」の文字が。



地産地消をめざす燃料は、軽油代わりになるA.バイオディーゼると、B.バイオ重油。



子ども達の未来に  
世界一やさしい企業を

「田舎が好き。世界基準の高品質なバイオディーゼルの地元の事業者に軽油よりも安く販売することで、頑張っている事業者を助きたい」と真つ直ぐな目で話してくれた上田さん。最近では、地元の農業者や水産加工業者にもバイオディーゼルを提供。一次産業者のCO2削減の取り組みをサポートして、命を育む一次産業を次世代が引き継げる仕事にしたいという思いもあるそうです。「今の目標は、自分の子どもが引き継ぎたいと思える仕事をつくること」。平戸で産声をあげた企業は、17年の時を経て、子ども達にやさしい環境を残す、世界一やさしい企業を目指して成長しています。



日本一の高純度を誇るバイオディーゼルの開発した有限会社 鶴丸設備 (平戸市大久保町)。平戸市内の浄化槽の維持管理、清掃事業も行う。

バイオディーゼルの活用方法

●松浦市公用車でも試験運行中!ほかにもいろいろ



非常時も通常通り  
救急車両や発電機が使えます

ポリタンクで持ち運び可能なため、災害時にも必要な場所に必要分だけ持ち運べます。



工業用や農業用の働く車で  
軽油・重油代わりに!

2月から相浦缶詰(株)のフォークリフトで試験導入がスタート。松浦市の民間企業で初です。



長崎空港で初めて!  
100%バイオ燃料の実証実験

日本航空(JAL)が長崎空港で運用する車両の燃料に導入され、運行されています。



3月1日から順次  
松浦市内でも廃油を回収します!

●家庭の廃油 回収スポット(準備中)

- ✓市役所、支所(旧松浦市内)
- ✓市内幼稚園、保育園等

松浦市と有限会社鶴丸設備で連携し、令和7年3月1日より順次、市内の家庭の使用済の調理油を回収できるよう回収ボックスの設置を準備しています。右記「使用済の調理油の出し方」をご参考の上、子ども達の未来にやさしい環境を残すため、燃料の地産地消および使用済の調理油の回収にご協力をお願いします。



✓使用済の調理油の出し方

油をペットボトル等のこぼれない容器に入れて水分が入らないようしっかりフタをしてください。  
※長期間保存した油もOK。未開封のものはそのままOK  
※天かすなどはそのままOK  
※エンジンオイルなどの鉱物油は回収できません

Instagram、Facebookは「まつら再エネ」で検索!

@matsuuracity\_saiene  
/matsuuracity.saiene



Instagram